

# C'est BURKINA!!

ブルキナファソレポート vol.3 

## 「自然」

村で生活していると多くの動物を見ることができます。犬、ロバ、鶏、ヤギ、羊、豚、牛…すべて家畜です。そして大きなトカゲやヤモリ、ヘビ。私が驚いたのは野鳥の種類の多さ。果樹類が豊富なブルキナファソ。真っ赤だったり真っ青に少し黄色が混じっていたり。とてもカラフルで、まるでドレスを身にまとっているかのように美しい鳥たちが、餌を求めて飛び回っています。



アフリカというと、ライオンやゾウなどのイメージが強いかもしれませんが、でも、ライオンやゾウが都市部にいるわけではありません。現地の人の多くも、見たことがありません。ブルキナファソ国土の北部はサヘル地帯。ブルキナファソは、アフリカゾウの生息する最北端と言われています。国内には自然公園や保護地区がいくつもあり動物の捕獲には厳しい制限がありますが、今でも多くの動物が乱獲されているのが現状です。

先日、乾季の間にゾウが水を求めてやってくるという町、ボロモに行ってきました。到着直後から、目の前に現れたのはざっと 30 頭。水浴びをしたり、ゴクゴクと水を飲んだり。地元の話では、50 年前までは今より数百キロ北部の方にもいたとか。人間が住みつくようになったからか、それとも自然環境の変化で住む場所を移動せざるを得なくなってしまったのか。きっと、ゾウだけではありません。絶滅してしまった種もたくさんいるでしょう。地球に住んでいるのはわたしたちだけではない、ということを強く感じた日でした。わたしたちは、多様な生き物と共生する社会についてもっと考えなければいけないかもしれません。



岡崎市から頂いた図鑑は、カディオゴ県クブリ群にある小学校 5 校に提供しました。テレビや新聞もなく、旅行することも滅多にない彼らにとって、ブルキナファソにも生息する野生の動物たちを彼らは知りません。「ライオン」と言ってもそれが何なのか分かりません。今回図鑑を贈呈することで、多様な野生動物や、植物を知るきっかけとなりました。子どもたちからは、1 ページ捲るごとに驚きの喚声わき「これ何？」と質問の連続。生物の多様性に興味を抱き、そして自分たちの環境について考える機会となることを願っています。